

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年2月18日				
ウィズユースライジングスター藤原台						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		机配置や導線を工夫し、安全に活動できる環境を心がけている	人数が多い日はスペースが不足するため活動の分散8時間時差利用の検討が必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	バランスを考慮したシフト作成を心がけている	人員不足時の対応体制が課題であり、安定した人員確保が必要
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚的にわかりやすい配置や掲示を行っている	さらなる構造を進める必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃、消毒を徹底している	活動内容に応じた環境整備の強化が必要
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		落ち着けるスペースを確保し、個別対応ができるようにしている	完全な個室確保が難しいため、出来る限りの配慮を行う
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	定期的なミーティングで振り返りを行うようにする	全職員が十分に参画できていないため、共有体制の強化が必要
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	保護者からの意見を把握し意見を取り入れている	意見を具体的改善に取り入れるよう強化する必要がある
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	日々の申し送りやミーティングで意見交換を行う	意見収集の仕組みをより明確化する必要がある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	行政指導や外部研修を参考に改善を行う	第三者評価の導入検討が必要
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	3	内部研修や外部研修への参加を促していく	全職員の参加が課題
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		活動内容を明確にし、プログラム化している	更なる進展の工夫が必要
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		保護者との面談を通じてニーズ把握を行う	保護者との面談を通して記録の定期的な見直しが必要
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	情報共有を行いながら支援内容を検討していく	全職員参加型の体制作りが必要
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	申し送りや記録で共有できるように、計画に沿った支援が行われるようにしていく	寄り沿った支援が行われるよう十分に職員間で共有をしていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	日々の日記をそれぞれの職員が責任持って行っている	それぞれの職員が記録していることをツールを通して共有していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	クッキングやアート、集団活動など実践的なプログラムを通じて、日常生活能力や社会性の向上につながる支援を行っている	本人支援、家族支援、移行支援、地域連携の各支店が計画上でより明確に整理されるように統一していきたい
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	3	担当の指導員によって活動のプログラムを立案している	各指導員が共有してプログラムの内容をより理解して活動できるようにしていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2	季節や興味のあることを取り入れ子供たちに楽しんでもらえるように工夫している	楽しめる活動を提供し安心できる環境を整備していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	個々の興味関心に応じた活動を支援計画に沿って行っている	活動内容のさらなる多様化と個別最適化が必要

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	グループメールによって共有している	全職員への共有体制を強化していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	業務終了後に打ち合わせが出来るよう体制を整えていく	全職員への共有体制を強化する必要がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		指導員が支援の検証と改善につなげるよう心がけている	有体制を強化していく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	2	定期的にモニタリングを実施し、支援内容の見直しを行う	モニタリングの頻度や記録の質の均一化が課題
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	4	保護者や本人の状況変化をよく知っている職員を中心にミーティングを行うようにしている	ミーティング内容を共有していくよう強化する
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	4	必要に応じて情報共有を行っている	引き続き続けていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3		必要に応じて情報共有を行っていく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	必要に応じて学校と情報共有を行っている	引き続き継続
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2	必要に応じて情報共有を行っている	引き続き継続
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		必要に応じて行っていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	2	必要に応じて行っている	連携の頻度や情報共有の質の向上が必要
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		研修の機会や情報共有を行っていけるよう検討が必要	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	2	保護者との連携を踏まえ丁寧な説明を心がけている	引き続き継続
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	3	連絡帳やメールを通して家族の意向を確認している	引き続き継続していく
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3	3	定期的に支援計画会の内容を説明し同意を行っている	引き続き継続していく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	2	連絡帳やメールを通して相談に応じている	引き続き継続していく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		保護者同士の交流機会を設けていく
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	できる限り迅速に対応している	引き続き継続していく

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	2	活動内容をホームページやSNSで発信している	引き続き継続していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	2	個人情報の管理ルールを徹底している	引き続き継続していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	2	保護者の気持ちとお子様の気持ちに配慮し情報の伝達を心がけている	引き続き継続していく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	地域の方々にも活動を理解し、協力していただけるよう発信していきたい	現実化していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	マニュアルを整備し職員間で共有していく	実践的な訓練の回数が増えていくようにする
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	4	マニュアルを整備し職員間で共有していく	実践的な訓練を行っていく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	2	職員間で知識を広げていく	研修会への参加を強化していく
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		保護者との連携と医師への確認ができるよう改善していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	マニュアルに沿って安全管理を第一に支援を行っていく	引き続き継続していく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	保護者へわかりやすく取り組み内容について説明を行う	保護者様に内容をしっかりと周知していただけるよう取り組んでいく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2	研修を実施し理解を深めている	引き続き継続していく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	3	研修を実施し理解を深めている	引き続き継続していく
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		契約時に必ず身体拘束についての説明を行っている	引き続き継続していく